



昭和十七年六月嫁ぎ、翌年四月に長男が誕生いたしました。その頃東京は空襲警報のサイレンが昼夜をわかず鳴りひびき、赤ん坊を抱いて防空壕に身をかくしたり、おぶって逃げまわったりしておりましたが、どうしても東京にすることはできなくなりました。二十年五月、二歳になったばかりの長男をおぶって義兄をたより、京都に逃れ、両洋中学の宿直室においていただきました。

「青汁」をご紹介くださいましたのは、京都成安女子高校校長藤松義央先生でございました。夫は藤松先生とは若い時からの親友と申しておりました。同郷でお親しく、早くから成安では速記を国語の授業の中に加え、夫も講師となっておりました。成安の速記部は地方大会で優勝したこともあったそうでございます。

終戦後間もなく、藤松先生は「ケール」の葉と種子、そして数本の苗木を持ってお訪ねくださいました。先生のお宅は洛北下鴨神社のお近くで、お庭にたくさん「ケール」を育てておられました。「ケール」はアメリカ原産の菜でその葉は「サラダ菜」に似ていますが、少し厚めで大きく五十センチ位で、しっかりとした茎に互い違いについております。先生は「ケールはビタミンCが豊富で身体によいのでぜひ飲んでみてください。」とおっしゃって、青汁のつくり方を教えてくださいました。「ケール」の葉、数枚をちぎって、少し水を注いでミキサーにかけますと青汁ができあがります。蜂蜜を入れると一層栄養が加わるとのこと、毎朝コップ一杯いただくようにとすすめてくださいました。さっそく校庭の隅